

1. 件名：東海再処理施設のガラス固化処理状況等に係る面談
2. 日時：令和3年9月15日(水)13時30分～15時05分
3. 場所：原子力規制庁10階会議室 ※一部出席者はTV会議にて実施
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

審査グループ 研究炉等審査部門

有吉上席安全審査官、小舞管理官補佐、加藤原子力規制専門員

監視グループ 核燃料施設監視部門

栗崎企画調査官

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

バックエンド統括本部 バックエンド推進部 次長

安全・核セキュリティ統括部 安全・核セキュリティ推進室 マネージャー

再処理廃止措置技術開発センター センター長 他9名

5. 要旨

○国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「原子力機構」という。）から、令和3年8月17日より実施している東海再処理施設における高放射性廃液のガラス固化処理状況等について、資料に基づき説明があった。

○また、ガラス固化処理状況について、再処理廃止措置技術開発センター長より廃止措置計画に係る責任者として以下のとおり補足があった。

- ・主電極間抵抗の低下による溶融炉の停止については、予め想定していた事象であるものの、想定より早く溶融炉の停止にいたってしまったことについて、原子力機構としても重く受け止めている。
- ・本件の対応については、廃止措置推進室を含めた再処理廃止措置技術開発センター全体で取り組む。また、副理事長をトップに据えた会議体と連携するなど、機構大としてもガラス固化処理の早期再開に向け対応する。

○原子力規制庁より、以下の通りコメントを伝えた。

（資料1について）

- ・ガラス溶融炉の運転停止については、今回キャンペーン中に発生した後工程の機器不具合による溶融炉の保持運転の影響を含め状況を整理し、次回の東海再処理施設安全監視チーム会合において説明すること。

○原子力機構より、了承した旨返答があった。

6. 配付資料

資料1 溶融炉の運転状況について

資料2 工程洗浄におけるせん断粉末の処理方法について

資料3 再処理施設に関する設計及び工事の計画（プルトニウム転換技術開発施設（P

C D F) 管理棟駐車場における事故対処設備の設置工事)